北海道

令和４年度市町村における
ＳＤＧｓ推進支援事業
報告書

北海道総合政策部計画局計画推進課

はじめに

2015（平成 27）年に国連サミットで採択された国際社会共通の目標である「持続可能な開発目標：ＳＤＧｓ（**S**ustainable **D**evelopment **G**oal**s**）」は、経済・社会・環境をめぐる幅広い課題の統合的な解決を目指しているものであり、道内において「誰一人取り残されない」社会を実現するためには、地方自治体及びその地域で活動するステークホルダーによる積極的な取組が必要不可欠です。

道では、道内市町村のＳＤＧｓ推進を促すため、2021（令和３）年度から２カ年にわたり、市町村がＳＤＧｓの推進に取り組むための支援を行い、そのプロセスや成果、課題を取りまとめ、「市町村におけるＳＤＧｓ推進モデル」を策定（2022（令和４）年７月改訂）し、道内市町村に共有しているところですが、市町村によりＳＤＧｓへの取組状況が異なることも念頭に、2022（令和４）年度においては、モデルの横展開も含め、支援を希望する市町村のニーズを踏まえながら、支援を実施しました。

本書は、2022（令和４）年度に取り組んだ事業内容を取りまとめ、広く周知することを目的に作成しましたので、市町村の皆様がＳＤＧｓの一層の推進を図るための参考としていただければ幸いです。

もくじ

Ⅰ　事業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　実施した支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

京極町支援の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

美瑛町支援の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

苫前町支援の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

Ⅲ　総括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

Ⅰ　事業の概要

1　事業の目的

■道では、令和２年度、令和３年度に「市町村におけるＳＤＧｓ推進モデルの作成」を目的に支援事業を実施し、令和３年５月にはモデルを策定、 令和４年７月には令和３年度の支援を踏まえ、改訂を行った。

■令和４年度は、これまでの支援事業を踏まえ、市町村総合計画や総合戦略　（以下、「 市町村　総合計画等」、という）の策定・改訂を契機とした市町村総合計画等へのＳＤＧｓの反映などを通じ、道内市町村におけるＳＤＧｓの取組の裾野拡大を図ることを目的とする市町村支援事業を実施することとした。

■また、市町村におけるＳＤＧｓの取組は、ＳＤＧｓの推進という共通の目標、行動を通じ、住民を巻き込んだまちづくりや地域課題解決の効果的な手法であると考えられ、こうした認識のもと、事業を進めることとした。

2　支援内容・内容等の設定

（１）支援対象市町村

●次のＡ～Ｃのいずれかに該当する市町村を支援対象とした。

Ａ：将来（令和４年度又は令和５年度に向けて、市町村総合計画等の策定・改定を予定しており、現在、ＳＤＧｓの反映をしていない市町村

Ｂ：直近で総合計画等を策定等したが、ＳＤＧｓの反映を行わなかった市町村

Ｃ：上記Ａ、Ｂ以外で、支援を希望する市町村

（支援の内容（２（３））　については、Ａ、Ｂを念頭にしているため、Ｃの場合、支援内容については要調整となることから、応募に当たっては、応募フォームにおいて希望する支援内容を具体的に記載する仕組みとした）

（２）選定市町村数

●４～６市町村

（３）支援内容

●２回支援を実施

［１回目支援］

・市町村の政策決定権のある幹部の方に対し、市町村総合計画等へのＳＤＧｓの反映や住民の理解促進手法、ＳＤＧｓに取り組むメリットなどについて、意見交換を実施

※道のほか、道と包括連携協定を締結している北海道大学、株式会社北洋銀行、損害保険ジャパン株式会社とともに、支援を実施

［２回目支援］

・市町村総合計画等へのＳＤＧｓの反映後に、市町村内の多様な主体が、ＳＤＧｓの実践に向け持続的な行動につなげていく「きっかけ」となることを目的に、市町村の意向を踏まえ、道が支援市町村に有識者を派遣し、住民や市町村総合計画等の審議を行う委員、企業、団体、学校などを対象に、ＳＤＧｓセミナー等（具体的な活動を伴うものを組み込むことも可）を実施。なお、支援先市町村においては、参加者募集、会場確保、セミナー等で使用する備品貸出（PC、プロジェクター、スクリーン等）のご協力をお願いした。

３ 対象事業の募集・応募・選定

（１）募集

●電子申請受付システム（簡易申請）を通じ募集。

（２）応募

●支援を希望する市町村は、電子申請受付システム（簡易申請）にアクセスし、必要事項を記入の上、応募。

●期限は令和４年８月 10 日（水）に設定。

（３）選定

●応募の際、記入内容のほか、応募多数の場合は、下記　＜選定基準＞のもと、計画推進課で総合的に判断し、決定することとした。

＜選定基準＞

・支援対象市町村Ａ、Ｂ、Ｃについて、Ａ、Ｂ、Ｃの順に優先採択する。

・毎年内閣府が実施している「ＳＤＧｓに関する全国調査」の「ＳＤＧｓ達成に向けて取り組みを推進されていますか？」の問に「推進している」以外の回答を行っている市町村を優先する。

・北海道ＳＤＧｓ推進ネットワークへの振興局別の市町村加入状況を勘案する。

４ 対象自治体の選定

■次の市町村を令和４年度の支援先市町村として選定した。

○京極町（後志総合振興局管内）

○美瑛町（上川総合振興局管内）

○苫前町（留萌振興局管内）

参考：令和２年度：厚真町、標茶町　令和３年度：登別市、弟子屈町

Ⅱ　実施した支援

1　各町の支援内容

	京極町	美瑛町	苫前町
１回目 支援	職員向けＳＤＧｓ研修会		
２回目 支援	地域課題に関する 意見交換	地域課題に関する 意見交換	苫前商業高等学校に おけるＳＤＧｓ授業
３回目 支援	京極中学校における ＳＤＧｓ授業	住民等向け ＳＤＧｓ勉強会	地域課題に関する 意見交換
４回目 支援	住民等向け ＳＤＧｓ勉強会		苫前・古丹別小学校に おけるＳＤＧｓ授業

※支援内容は各町と協議の上、決定

※Ⅰ-２-（１）の分類上、「Ｃ」として整理

2　各町の支援実施時期と対応者

	京極町			
	内容	開催日	対応者	関連 ページ
１回目 支援	職員向け ＳＤＧｓ研修会	10/20	道	Ｐ５ 参照
２回目 支援	地域課題に関する 意見交換	11/11	町、北洋銀行、北海道大学、 損保ジャパン、道	Ｐ６ 参照
３回目 支援	京極中学校における ＳＤＧｓ授業	11/14	外部講師、道	Ｐ７ 参照
４回目 支援	住民等向け ＳＤＧｓ勉強会	2/22	損保ジャパン、道	Ｐ９ 参照

	美瑛町			
	内容	開催日	対応者	関連ページ
１回目支援	職員向け ＳＤＧｓ研修会	9/29	道	Ｐ11参照
２回目支援	地域課題に関する意見交換	10/25	町、北洋銀行、北海道大学、損保ジャパン、道	Ｐ12参照
３回目支援	住民等向け ＳＤＧｓ勉強会	2/25	損保ジャパン、道	Ｐ13参照

	苫前町			
	内容	開催日	対応者	関連ページ
１回目支援	職員向け ＳＤＧｓ研修会	10/14	道	Ｐ15参照
２回目支援	苫前商業高等学校におけるＳＤＧｓ授業	11/7	外部講師、道	Ｐ16参照
３回目支援	地域課題に関する意見交換	11/16	町、北洋銀行、北海道大学、損保ジャパン、道	Ｐ18参照
４回目支援	苫前・古丹別小学校におけるＳＤＧｓ授業	1/30	外部講師、道	Ｐ19参照

３　各町における支援実施結果

京極町１回目

１回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、京極町におけるＳＤＧｓの推進に向け、町の職員の皆様に対し、道職員が講師となり、ＳＤＧｓの基礎知識や行政としての進め方に関する研修会を実施しました。

＜概要＞

□日時：令和４年 10 月 20 日（木）13:30～15:00（１回目）
　　15:15～16:45（２回目）

□場所：京極町役場２階会議室

□講師：北海道総合政策部計画局計画推進課職員

□内容：ＳＤＧｓについて、行政とＳＤＧｓ

□参加人数：京極町職員 39 名

＜当日の様子＞

（説明の様子①）

（説明の様子②）

京極町２回目

２回目は、京極町における地域課題に関する意見交換を実施しました。

意見交換は、京極町と今回の支援事業に協力いただいている企業・大学が、まずは、つながる「きっかけ」となることを主目的に設定しました。

加えて、京極町が抱える地域課題について、その解決や、まちづくり推進の視点で、道や協力いただいている企業・大学の知見やそれぞれが実施している取組で、京極町とともに一緒に取り組めることがないか、今後の連携可能性を検討する場とすることも、目的の１つとして、設定しました。

＜開催日時等＞

□日　時：令和４年 11 月 11 日（金）13:30～15:00

□場　所：京極町役場１階会議室

□参加者：京極町役場、株式会社北洋銀行、損害保険ジャパン株式会社、
北海道大学　北海道

＜概要＞

○道から趣旨説明、協力企業・大学から各自の取組紹介、京極町から地域の現状等について説明後、意見交換を実施しました。

○再生可能エネルギーや移住関連の話題のほか、コンパクトな町である京極町の強み、京極町出身者が通う町外高校との連携など、幅広く意見交換を展開しました。

○今後、意見交換内容を踏まえ、連携に向けた提案等について、各自、検討することとし、意見交換を終了しました。

（意見交換の様子）

京極町３回目

３回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、京極町立京極中学校の全校生徒の皆さんを対象に、カードゲームを使用したＳＤＧｓの理解促進の授業を実施しました。

学年を越えたチーム編成を行い、地球Ａ・地球Ｂに分かれて取り組み、それぞれの地球の結果について、全員で振り返りを行いました。

生徒の皆さんは、普段とは異なる学年の生徒と交流しながら、話し合い、協力し、カードゲームのゴール達成に向けて一生懸命取り組んでいました。

＜概要＞

□日時：令和４年 11 月 14 日（月）13:05～14:55

□場所：京極中学校体育館

□講師：ワークショップデザイン　describe with　高橋　優介　氏

□内容：ＳＤＧｓカードゲームワークショップ「2030ＳＤＧｓ」

□参加人数：京極中学校生徒（１～３年生）58 名

＜振り返り時の生徒の発言＞

○初めてＳＤＧｓの活動を行ったが、楽しみながら取り組めた。

○最初は自分たちの目標達成を考えていたが、
後半は、他のチームの状況や世界の状況メーターを意識しながら、進めることができた。

○ゲーム前半を終え、自分たちの地球がピンチ（環境・社会の状況が良くない）時に、
何かしなければならないと思い、行動した。

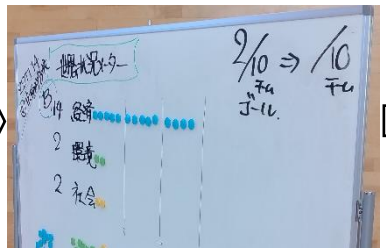
＜当日の様子＞

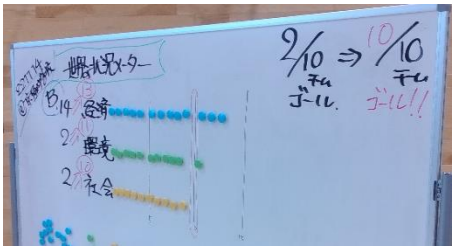
（ＳＤＧｓの説明の様子）

（カードゲーム中の様子）

地球Ａ

地球Ｂ





（ゲーム開始前）

（前半終了時点）
→ＡもＢも経済が大きく
伸びています。

（ゲーム終了時点）
→環境・社会のことも
しっかり考え、行動できました。

京極町４回目

４回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、町民の方を対象としたＳＤＧｓの理解促進のための勉強会を実施しました。

当日は、ＳＤＧｓの概要説明の後、ＳＤＧｓの 17 の目標を達成するために、現在から 2030 年までの道のりを体験するカードゲームを使用し、ＳＤＧｓの理解を深め、行動につなげることを学びました。最後に、振り返りとして、感想の共有とともに、自分たちがどのような取組みができるか、参加者それぞれが考え、勉強会を終了しました。

＜概要＞

□日時：令和５年２月 22 日（水）昼の部 15:00～17:30
夜の部 18:00～20:30

□場所：京極町公民館２階研修室

□講師：損害保険ジャパン株式会社社員２名

□内容：ＳＤＧｓカードゲーム

□参加人数：昼の部：14 名　夜の部：15 名

＜振り返り時の参加者の発言＞

○開始時、お金稼ぎに走ってしまったが、マイナス面が多かった。
先のことを考えずに進めたのは失敗だった。

○目標を達成させると環境がマイナスになるプロジェクトがあり、悩んだ。

○自分の力では及ばないことが多々あった。

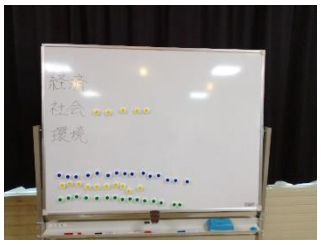
○目標達成に向けて壁にぶつかった。他の方との連携が大事と感じた。

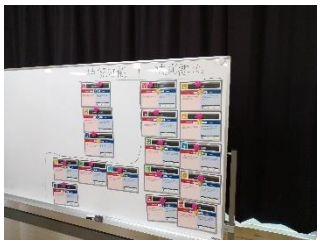
○経済・環境・社会をバランス良く上げていくことが大切だと思った。

＜当日の様子＞

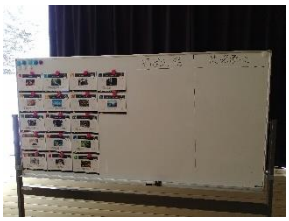
（ＳＤＧｓの説明の様子）

（カードゲーム中の様子）

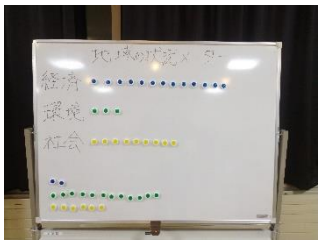




（昼の部ゲーム終了）



（ゲーム開始前）



（夜の部ゲーム終了）

美瑛町１回目

１回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、美瑛町におけるＳＤＧｓの推進に向け、町の職員の皆様に対し、道職員が講師となり、ＳＤＧｓの基礎知識や行政としての進め方に関する研修会を実施しました。

＜概要＞

□日時：令和４年９月 29 日（木）13:30～15:30

□場所：美瑛町町民センター３階大会議室

□講師：北海道総合政策部計画局計画推進課職員

□内容：ＳＤＧｓについて、行政とＳＤＧｓ

□参加人数：美瑛町職員 54 名

＜当日の様子＞

（説明の様子①）

（説明の様子②）

美瑛町２回目

２回目の支援は、美瑛町における地域課題に関する意見交換を実施しました。

意見交換は、美瑛町と今回の支援事業に協力いただいている企業・大学が、まずは、つながる「きっかけ」となることを主目的に設定しました。

加えて、美瑛町が抱える地域課題について、その解決や、まちづくり推進の視点で、道や協力いただいている企業・大学の知見やそれぞれが実施している取組で、美瑛町とともに一緒に取り組めることがないか、今後の連携可能性を検討する場とすることも、目的の１つとして、設定しました。

＜開催日時等＞

□日　時：令和４年 10 月 25 日（火）13:30～15:00

□場　所：美瑛町役場３階会議室

□参加者：美瑛町役場、株式会社北洋銀行、損害保険ジャパン株式会社
北海道大学、北海道

＜概要＞

○道から趣旨説明、協力企業・大学から各自の取組紹介、美瑛町から地域の現状等について説明後、意見交換を実施しました。

○農業と観光の話題をメインとしながら、ゼロカーボンの取組や再生可能エネルギーの状況のほか、関係人口、地域通貨Ｂｅコインなどについて意見交換を展開しました。

○今後、意見交換内容を踏まえ、連携に向けた提案等について、各自、検討することとし、意見交換を終了しました。

（意見交換の様子）

美瑛町３回目

３回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、町民の方を対象としたＳＤＧｓの理解促進のための勉強会を実施しました。

当日は、ＳＤＧｓの概要説明の後、ＳＤＧｓの 17 の目標を達成するために、現在から 2030 年までの道のりを体験するカードゲームを使用し、ＳＤＧｓの理解を深め、行動につなげることを学びました。最後に、振り返りとして、感想の共有とともに、自分たちがどのような取組みができるか、参加者それぞれが考え、勉強会を終了しました。

＜概要＞

□日時：令和５年２月 25 日（金）10:00～12:30

□場所：美瑛町町民センター２階第３・第４会議室

□講師：損害保険ジャパン株式会社社員５名

□内容：ＳＤＧｓカードゲーム

□参加人数：20 名

＜振り返り時の参加者の発言＞

○チーム目標と社会課題解決、どちらをメインに据えるか、悩みながら進めた。

○自分たちのチームの利益だけ優先すると、うまくいかないことがわかった。

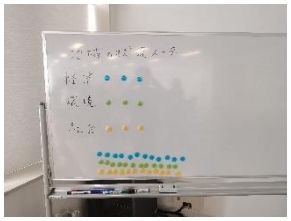
○チームとして社会貢献しようと考える場面もあれば、他のチームから無償支援を受ける場面もあった。人が集まり、課題共有することで解決できるプロジェクトがあり、コラボ・協働がとても大事であると思った。

○学生の立場で参加し、最初、緊張したが、周りのサポートを受けながら、楽しく取り組めた。他チームとの交渉がとても難しかった。

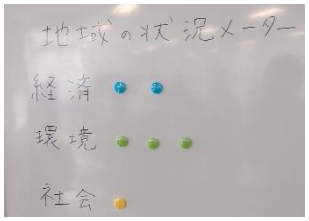
＜当日の様子＞

（ＳＤＧｓの説明の様子）

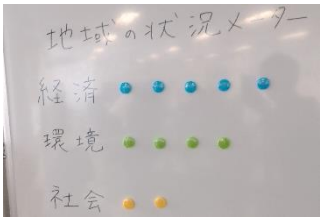
（カードゲーム中の様子）



（ゲーム開始前）

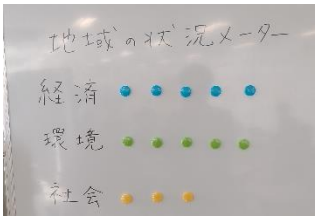


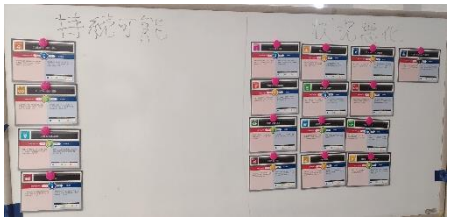
（１ターン目終了）



（２ターン目終了）

（ゲーム終了）





苫前町１回目

１回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、苫前町におけるＳＤＧｓの推進に向け、町の職員の皆様に対し、道職員が講師となり、ＳＤＧｓの基礎知識や行政としての進め方に関する研修会を実施しました。

＜概要＞

□日時：令和４年 10 月 14 日（金）13:30～15:30

□場所：苫前地区コミュニティセンター

□講師：北海道総合政策部計画局計画推進課職員

□内容：ＳＤＧｓについて、行政とＳＤＧｓ

□参加人数：苫前町職員 16 名

＜当日の様子＞

（説明の様子）

苫前町２回目

令和４年度の支援先市町村である苫前町において、２回目の支援を実施しました。

２回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、苫前商業高等学校１年生の生徒の皆さんを対象に、カードゲームを使用したＳＤＧｓの理解促進の授業を実施しました。

生徒の皆さんは話し合い、協力しながら、カードゲームのゴール達成に向けて一生懸命取り組んでいました。

＜概要＞

□日時：令和４年 11 月７日（月）13:25～15:15

□場所：苫前商業高等学校視聴覚室

□講師：ワークショップデザイン　describe with　高橋　優介　氏

□内容：ＳＤＧｓカードゲームワークショップ「2030ＳＤＧｓ」

□参加人数：苫前商業高等学校１年生 15 名

＜振り返り時の生徒の発言＞

○カードゲームを通し、経済だけが発展するのではなく、
　環境・社会も一緒に進めていかなければならないと理解した。

○後半は、環境・社会のことを意識しながら、行動するようにした。

○環境を伸ばすことの難しさを体験した。

○話し合い（パートナーシップ）で解決できることが多々あった。

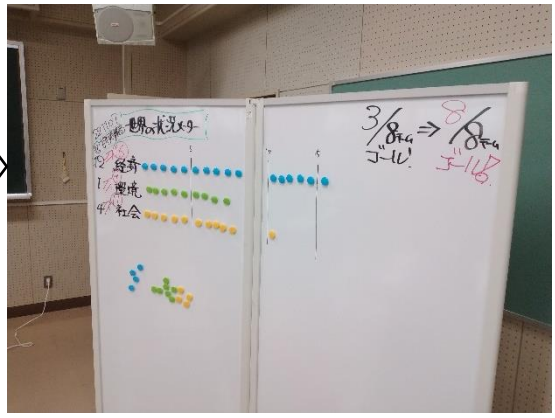
＜当日の様子＞

（ＳＤＧｓの説明の様子）

（カードゲーム中の様子）

（ゲーム開始前）

（前半終了時点）
→経済が大きく
伸びています。



（ゲーム終了時点）
→環境・社会のこともしっかり考え、
行動できました。

苫前町３回目

３回目の支援は、苫前町における地域課題に関する意見交換を実施しました。

意見交換は、苫前町と今回の支援事業に協力いただいている企業・大学が、まずは、つながる「きっかけ」となることを主目的に設定しました。

加えて、苫前町が抱える地域課題について、その解決や、まちづくり推進の視点で、道や協力いただいている企業・大学の知見やそれぞれが実施している取組で、苫前町とともに一緒に取り組めることがないか、今後の連携可能性を検討する場とすることも、目的の１つとして、設定しました。

＜開催日時等＞

□日　時：令和４年 11 月 16 日（水）13:30～15:00

□場　所：苫前地区コミュニティセンター２階多目的会議室

□参加者：苫前町役場、株式会社北洋銀行、損害保険ジャパン株式会社
北海道大学、北海道

＜概要＞

○道から趣旨説明、協力企業・大学から各自の取組紹介、苫前町から地域の現状等について説明後、意見交換を実施しました。

○脱炭素や再生可能エネルギーを念頭においたまちづくりのほか、ふるさと納税、農業・水産業、地域交通の状況などについて、幅広く意見交換を展開しました。

○今後、意見交換内容を踏まえ、連携に向けた提案等について、各自、検討することとし、意見交換を終了しました。

苫前町４回目

４回目の支援は、町からの支援希望内容を踏まえ、苫前小学校及び古丹別小学校の６年生の生徒の皆さんを対象に、カードゲームを使用したＳＤＧｓの理解促進の授業を実施しました。

苫前町では、令和４年度をもって古丹別中学校が閉校となることから、古丹別小学校の生徒は、令和５年度から苫前中学校に進学します。今回の合同授業は、４月から同じクラスメイトとなる２つの小学校６年生の交流の機会にも位置付け、実施しました。

＜概要＞

□日時：令和５年１月 30 日（月）13:20～14:55

□場所：苫前小学校体育館

□講師：ワークショップデザイン　describe with　高橋　優介　氏

□内容：ＳＤＧｓカードゲームワークショップ「2030ＳＤＧｓ」

□参加人数：苫前小学校・古丹別小学校６年生 21 名

＜生徒の様子＞

○自分たち（カードゲームのチーム）だけが良ければ良いという考え方ではなく、「自分のチームが他のチームに協力できることを明示」することや「異なるチーム同士が話し合いながら、より良い方法をアドバイス」するなど、カードゲームを通じ、パートナーシップの大切さを体感している様子が見られました。生徒の皆さんは、ＳＤＧｓのゴール達成に向けて一生懸命取り組んでいました。

＜当日の様子＞

（ＳＤＧｓの説明の様子）

（カードゲーム中の様子）

（前半終了時点）

→序盤、経済が大きく伸びる一方、環境・社会の落ち込みが発生。状況に気づき、対応する行動により、改善が図られました。

（ゲーム終了時点）

→環境・社会が伸びるも、一時的に、経済の落ち込みが発生。最終的には、全体のバランスを取りながら行動できました。

Ⅲ　総括

1　成果についての分析

（理解促進）

■道内市町村におけるＳＤＧｓの取組の裾野拡大を図るためには、住民の理解促進が不可欠であり、今回の支援先である３町の考えとも、同じ認識であった。

■こうした認識のもと、まずは、住民に接する機会が多い町の職員がＳＤＧｓの理解を深めることが重要であるという立場から、町職員を対象としたＳＤＧｓ研修会を実施し、ＳＤＧｓの基礎的知識や、行政目線からのＳＤＧｓへのアプローチ手法について理解を深める機会となった。

■また、子どもたちから大人まで、様々な立場にある皆様を対象に、ＳＤＧｓの基礎的知識を体感的に理解することができるカードゲームを用いてＳＤＧｓの理解促進を図るとともに、カードゲームの振り返り時に参加者の考えを共有するなど、ＳＤＧｓを通じた地域課題の解決につながることを意識した支援を実施した。

■参加者からは「人が集まり、課題共有することで解決できることがあり、コラボ・協働がとても大事である」、「経済だけが発展するのではなく、環境・社会も一緒に進めていかなければならないと理解した」など、ＳＤＧｓへの理解促進が図られ、今後、３町におけるＳＤＧｓ推進に向けた基礎固めを行うことができた。

（連携の取組）

■今回の市町村支援では、道と包括連携協定を締結している株式会社北洋銀行、北海道大学、損害保険ジャパン株式会社の協力のもと、取組を展開した。

■道とともに３町を訪問し、「地域課題に関する意見交換」を実施。意見交換の主目的を、まずは、参加者同士がつながる「きっかけ」とすることに設定し、その上で、３町が抱える地域課題について、その解決や、まちづくり推進の視点で、今後、一緒に取り組めることがないか、連携可能性を検討する場とした。

■この意見交換を通じ、つながった成果の１つが、今回の支援事業の一環でもある「住民等向けＳＤＧｓ勉強会」である。住民等向けＳＤＧｓ勉強会は、京極町、美瑛町から支援希望があったものであるが、どのような内容で進めるか検討中であった。そのような中、意見交換の際、損害保険ジャパン株式会社の社員が講師となりＳＤＧｓの理解を深め、行動につなげることを学ぶことができるカードゲームの紹介があったことをきっかけに、住民向けＳＤＧｓ勉強会で協力いただくこととなった。

■また、この事例以外においても、地域課題解決のための支援など、今後の連携可能性に関するヒアリングも行われている。

■ＳＤＧｓのゴール 17「パートナーシップで目標を達成しよう」と合致する動きでもあり、こうした取組が今後広がっていくことが期待される。

2　今後に向けて

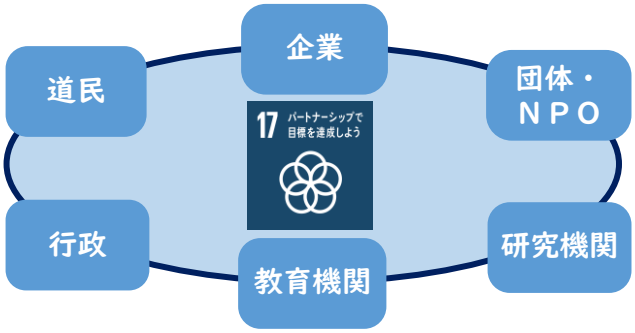
■2023 年となり、ＳＤＧｓも目標年の折り返しとなった。
今回の支援の取組を通じ、「言葉の認知度」は高いものの、「内容の理解」は依然として課題が残っていると感じ取れる場面もあった。
一方、若い世代では、ＳＤＧｓへの関心度の高さや取り組む意欲も、今回の支援を通じ、確認することができた。今後の未来を担う若い世代のこうした状況は、ＳＤＧｓ推進の視点において、明るい話題となった。

■道では、ＳＤＧｓの推進に向けては、できるだけ多くの道民の方々に知っていただくことが大切であり、市町村の果たす役目は大変重要であると考えている。
また、今回の支援では、新たに包括連携協定を締結している企業・大学が参画し、市町村とのつながりのもと、今後、地域課題の解決に向けた様々な取組が展開していくことも期待されるところである。

■道としては、今後も、道内各地で多様な主体や幅広い世代がＳＤＧｓの理念に共感し、行動につなげていくことができるよう、市町村の取組状況やニーズに応じて、支援を行っていく。

ポイント

○内容理解の促進
○若い世代が参画する機会の創出
○パートナーシップの構築



令和４年度市町村におけるＳＤＧｓ推進支援事業報告書

令和５年（2023 年）３月

北海道総合政策部計画局計画推進課